

## 北海道における「道の駅」の課題と展望

開催日時：平成18年2月21日（火）

14:00～17:00

開催会場：ホテル札幌ガーデンパレス

### ■基調講演

#### 『道の駅いぶすきPFI事業

#### ～「笑売」と「飽きない」の店づくり～

下吉 龍一氏（しもよしりゅういち）

指宿市企画財政部企画課企画係長

下吉龍一氏は、平成16年オープンした全国初のPFI事業による「道の駅いぶすき」、「彩花菜館」の計画・運営を担当されており、「道の駅」をPFI事業として取り上げた経緯、事業概要、PFI事業のメリット・課題及び道の駅のあり方について講演をしていただきました。

PFI事業の導入の経緯は、地元から「道の駅」の強い要望が上がり、市としてこれに応えるため独立採算型で行える施設の建設計画を進めることにしましたが、「道の駅」は商売、販売を主にする仕事と考え、民間的な発想をはかることとしました。ちょうど平成11年にPFI法ができ、これにより民間にも任せられることとなったため、PFIの導入を進めたものです。

PFI事業の内容は、建物、施設の設計・建設、15年間の建物の保守管理、清掃、警備、また特産品の販売、地域情報発信業務、民間事業者の自由提案による自主運営が事業の範囲であり、さらに都市公園事業で整備した公園、国土交通省で整備したトイレの維持管理が含まれます。

PFI事業のメリットとしては、「行政側に一度に多額の財政負担が発生しないため、外の事業にまわせる」「性能発注主義であるので、事業費の36%の削減ができる」「民間経営であるため、民間の創意工夫を取り込める」ということがあります。

事業の課題としては、「事業化の過程における議会への対応」



「需要量の正確な把握」「民間にできるだけインセンティブを持たせるようなスキームの検討」等があげられました。

また、地元密着型PFIとして商業高校の体験学習の受け入れに応じていることや、運営会社の社長さんは「笑売」（笑顔でいらっしゃいませということ）、「飽きない」（お客様を飽きさせない店づくり）に心がけており、笑顔を持って「いらっしゃいませ」と言える店づくりが、これからの「道の駅」に必要なのではないのか、ということで締めくくられました。

### ■学生グループ報告



#### 「道の駅」の課題について

##### 学生グループ

片岡 純江さん（かたおか すみえ）

長谷川 裕修さん（はせがわ ひろのぶ）

室蘭工業大学大学院



「鉄道に駅があるように道路にも駅があってもよいのでは」という考えのもと、平成2年1月から構想が練られ、平成5年4月22日に第1回「道の駅」が登録されました。平成18年2月現在では全国で830駅、北海道では92駅が登録されています。「道の駅」は“地域とともに作る個性豊かな賑わいの場”として、“休憩機能”、“情報発信機能”、“地域の連携機能”の3つの機能を併せ持っています。

私たちは、平成17年11月に「ハウスヤルビ奈井江」「マオイの丘公園」「フォーレスト276」「ニセコビュープラザ」の4駅を見学しました。

見学会を通じ、道の駅によりもたらされる効果は、①地域のPR、ランドマーク的な存在になる、②地域活性化、③地域住民への現金収入機会の増加、などが聞かれました。しかし、①資金・運営面での課題、②利用者マナーの低下、

③情報発信機能の整備、など道の駅が抱える問題が多いこともわかりました。

また、道の駅による効果、課題を学生ワークショップにて導き出しました。

効果として、①利便性の向上、②新たな楽しみの創出、③機械創出、④駆け込み寺、の4つの観点、課題として、①管理運営主体、②利用者別、③季節変動、④地域活性化、⑤防災拠点、の5つの観点でまとめました。

以上のことをふまえ、私たち学生が「道の駅」を経営するならば、という視点で課題を抽出し、一番大きな課題としては利益などといった「経営理念」「地域貢献」「集客システム」「従来の道の駅からの脱却」という4点の課題を見つけました。

### 新「道の駅」の提案について



#### 学生グループ

林 郁子 さん(はやし いくこ)

北海道大学大学院

松並 雄三 さん(まつなみ ゆうぞう)

北海道大学工学部

酒井 陽介 さん(さかい ようすけ)

北海学園大学大学院

私たちが新しく道の駅をつくるとしたら、どういう道の駅をつくっていきたくかという視点で考えました。従来の三つの機能にプラスして、利益をあげることに、地域に貢献することを重視し、そのための集客システム、地域活性化・社会貢献のシステム、従来の「道の駅」からの脱却の3点を検討し、イメージ化を行いました。

集客システムとしては、オンリーワンのものを作って人を集める、必然的な集客システム、利用者層を拡大のための公共交通機関の乗り入れ、新たな道の駅の形態、道の駅同士の連携、「川の駅」「馬の駅」との統合などを提案しました。

地域の活性化・社会貢献のシステムとしては、今まで休憩のみで立ち寄っていた観光客を宿泊させるため、ホームステイやファームステイの拠点としたり、地元のホテルや旅館、商店、観光施設、農家などと連携したりすることで、数時間滞在していた観光客を数日間の滞在に発展させることが期待できます。また、人材の雇用の促進による地域貢献も考えられます。

最後に、従来の道の駅からの脱却という点で

は、従来の機能に新たな機能をプラスしたり、病院や自動車修理工場などの併設、ATM、充電器、仮眠室などを設置して、地震や台風など災害への支援や、吹雪のときの一時避難などの緊急対応が可能となる防災拠点という位置づけをして、新たなサービスとして「安心」を提供したいと考えました。

以上のことを広域連携図と施設配置図という二つの視点で具体的にイメージ化しました。こうした従来の道の駅からの脱却を図ることで新しい形の道の駅が見えるのではないだろうかと思えます。

### ■パネルディスカッション



高野 北海道は、自動車交通の移動が他の地域に比べて高く、「道の駅」に込める思いは非常に強いものがあると思います。今回、皆さんに何らかの思いを残すことができればと思っており、まずはパネラーからお話をちょうだいしたいと思います。



#### コーディネーター

高野 伸栄 氏(たかの しんえい)

北海道大学大学院工学研究科助教授

国土交通省ホームページに掲載されている「みちの駅のあり方を考える研究会」委員として、全国の「道の駅」の課題や質の向上、個性的な発展方向のあり方を提言し、北海道内の多くのまちの交通計画、まちづくりに積極的に関わっています。

三浦 「道の駅」は拠点で、それを結んでいるのが道ですが、この道の中での無数の点が魅力ではないかなと。その町自体に魅力がないと、リピーターにはならないと思っています。



#### パネリスト

三浦 弘子 氏(みうら ひろこ)

(有)ブルームテック社長

家族5人で「道の駅」を拠点に旅行をはじめて6年。'02年から4年連続全駅走破!

また、トイレなどの登録後のメンテナンスも期待しています。ただ、トイレが汚いというのは、使う側のマナーでもあります。

**丸谷** 「道の駅」は、役所がつくったベスト商品だと思いますが、やっぱり、特色を出すのは物販が伴わなければ余り意味がないと思います。直売所の方々と話していると、地元の事情もわかるし、非常に楽しいですね。

また、「道の駅」はいつでも使える施設ですが、利用者のマナーやモラルに任されていますから、きちっとしたビジョンを持って、ごみも引き受けていただくという形が望めないかと思います。



#### パネリスト

**丸谷 一三郎**氏 (まるや いちさぶろう)  
フリーライター

近著に「全ガイド/味めぐり北海道道の駅」「北海道コテージ&キャンプ場ガイド」など、道の駅や体験観光、オートキャンプ場などの観光トレンドをテーマに取材。

**山本** 全国で初めて観光協会が株式会社化になり、雇用創出や町の補助金等も大分減りました。

また、ニセコビュープラザ直売会での通年の農産物販売によって、たくさんお客さんが来ています。

今後は、「道の駅」を拠点とした地産地消の拠点づくりをやっていきたいと思っています。

**稲村** 道の駅は、公共機関の駅と違い、自由な



#### パネリスト

**山本 契太**氏 (やまもと けいた)  
(株)ニセコリゾート観光協会統括部長  
全国初! 観光協会を株式会社化し「道の駅」を通じてまちの活性化に奮闘中。

足を手に入れた観光客の市場原理で動くため、ドライブ観光における「道の駅」は、非常に大きなポイントになると考えています。

#### パネリスト

**稲村 秀人**氏 (いなむら ひでと)  
JTB北海道営業本部市場開発担当課長  
観光客と「道の駅」を活用した地域交流イベント(ベンチャーキッズなど)を企画。



また、個性という点では、立派な商品よりも、どんな人がいるかが非常に重要と考えています。

**谷村** 毎年「道の駅」が増えていますが、同じことをやっていたら、魅力は薄れます。また、登録までは一生懸命やるけれども、その後が余り考えられていなかったりします。指宿で成功されているのは、PFIを導入することで、初期段階で運営そのものもしっかり考えられていたからだと思います。

その場所の特徴を活かし、登録時の思いを今また考え直して取り組んでくれればと思います。

#### パネリスト

**谷村 昌史**氏 (たにむら まさし)  
北海道開発局道路計画課課長補佐  
一般ドライバーに定着した「道の駅」の知名度をいかし、いろんな取組をしてほしい。



**高野** 玄関というか間口だけではだめで、そこに魅力が必要という点が共通している話ですね。

北海道の「道の駅」で一番はどこになりますか。

**丸谷** 産地で販売するメリットを、利用される方にも還元しているところは榮えると思います。

**高野** ニセコの特徴は、直売と観光を分けた組織ですよ。

**山本** 将来は一つになるかもしれませんが、互いにいい関係で相乗効果があると思っています。

**高野** 例えば、民間あるいは利用者団体から評価をつけるという発想はどう思われますか。

**稲村** 評価の仕方が工夫できれば、すごくおもしろいのではないかと思います。

**高野** 「道の駅」は人を引きつけなくてはいけないわけですが、公共事業という制約の中で、この「笑売」と「飽きない」をどう実現していくか、これから一番必要とされているテーマが、この「道の駅」に端的にあらわれており、うまくいっているところ、いっていないところが出ていたと思います。

今回は、「道の駅」に関していい議論ができたと感じており、この辺りでパネルディスカッションを閉じさせていただきたいと思います。